科学技術高校・理科通信
地学編
いきもの記
Vol.166 2025.12.2
生物教員 佐藤龍平

北アルプスへ初挑戦①
涸沢の紅葉と夕日

この学校に来て１年目（10年前）にアウトドア部の顧問になり、当時の主顧問のO先生の無茶振りにより、いきなり南アルプスの3,000mを超える**荒川三山**合宿に連れて行かれた（生徒を引率する側なのだが気持ち的には“連れて行かれた”で正しい）。３泊４日テント泊、荷物が重くて登りが超しんどい。途中、雨も降り出し、今振り返っても今までで一番きつい登山だった。でも晴れた日の山頂の絶景や下山時の達成感のせいで、気づけばアルプスにハマっていた。以後、部活の引率でのみ登山する自称“職業登山家”だったのだが、ついに今年、**プライベートで本格登山に、しかも北アルプスの高難易度エリアに行くことになった。**生徒を引率する場合、もちろん危ないところは選ばない。荒々しい岩場の多い北アルプスの**穂高連峰**は、部活では厳しい。個人的に行ってみたいとは思いつつ、ぼくには厳しいだろうと自分を勝手に過小評価していた。そんな折、これまで数多の名峰を制覇してきたベテラン登山家のS先生から「一緒に行ってみちゃいます？」と軽いお誘いをいただき、**行ってみちゃうことにした。**自分にとっては**大きなチャレンジ。**ヘルメットも手袋も買った。当日までワクワクが止まらなかった。ということで、**いざ秋の北アルプス・穂高連峰ガチ登山の旅へ！！**今回は生き物がほぼ出てこないただの旅行記だけれど、ご容赦願いたい（地学には関連があります）。

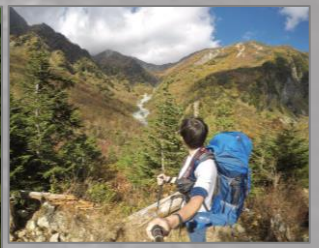
14時、涸沢から見る穂高連峰　穂高連峰は、奥穂高岳（3,190ｍ）、北穂高岳（3,106ｍ）、前穂高岳（3,090ｍ）、西穂高岳（2,909ｍ）などから成る。この翌日、涸沢から北穂高岳に登り、尾根沿いを奥穂高岳まで辿る（次号参照）。

17時、夕日に染まる涸沢　穂高連峰の後ろに日が沈み、空がオレンジ色に染まって幻想的な風景になった。重い荷物を背負ってここまで来るのは超大変だったので、報われた気がした。涸沢は典型的なカール地形（スプーンですくったような形）で、氷河による浸食がこのような景観を生んだ。撮影している場所を含め、ところどころ盛り上がった丘になっていて、そこは氷河が削った堆積物が溜まったモレーンと呼ぶ。岩石が崩れ落ちるような斜面には植物は生えにくいが、モレーンは安定しているので植物が生える。

10月某日、学生の時以来の夜行バスに乗って渋谷を出発。翌朝上高地に着くと、バキバキになった尻と腰をほぐしながら、朝６時にスタート。林道を２時間半歩いて横尾へ。横尾からはいよいよ登山のスタートだ。紅葉を見るための登山客がわんさかいる。涸沢までの登山道は平易だが、寒がりのぼくは寒さ対策をしすぎて荷物が重い。**大失敗だ…。防寒着を欲張らなきゃ良かった…泣。**横尾までの平坦な道ですでにへこたれていた。ゼーハー言いながら、３時間かけて何とか涸沢まで登った（今回の３日間の行程でここが最もつらかった）。

『**涸沢の紅葉見ずして穂高を語るなかれ**』という名言がある。それほどここの紅葉は有名で、これも一度は見てみたいと憧れていた。すでに紅葉は終わりかけ、かつ曇天だったが、それでも真っ赤に紅葉した**ナナカマド**や黄色い**ダケカンバ（岳樺）**が非常に美しい。両種とも本州では山岳地帯の**森林限界**付近に生える落葉樹だ。

17時頃、曇り空なので夕焼けは見れないだろうと油断していたが、何やら周囲が赤くなってきたので空を見上げてみて、驚いた。**「空が…燃えてる！」**穂高連峰側に落ちた夕日が雲と空をオレンジ色に染めていて、紅葉も相まって、それはそれは美しい景色を生んでくれていた。急いでカール全体を見渡せる場所へ走り、撮影。マジックアワーは10分程度で終わってしまった。**苦労しなけりゃ見れない絶景がある**…あぁ、登山沼からも抜け出せそうにない。さて、危険エリアの登山はこの翌日。次号へ続く。



左２枚：穂高連峰の位置　上高地のバスターミナルから横尾まで林道を2.5時間歩く。そして横尾から涸沢へ３時間ほど登る。**右：涸沢への道中**　天気が良くて気持ち良いが、テントと防寒着を詰めたバッグが重い！